



温泉を拠点に健康づくり

全国初の常設「大学」

大町に開設

温泉地を拠点にした「健康づくり大学」事業に取り組む民間活力開発機構(経済産業省所管)は五日、全国初の「常設

温水プールで水中運動の講義を受ける実践講座の参加者

にも温泉療養の相談に乗るなど、温泉などを活用した健康づくり交流の場としていく計画だ。

この日はオープンを記念し、二泊三日の日程で実践講座も開講。開講式で同機構の里敏行理事長は、「北アルプスの景観と水のおいしさに対する感動が残っていた」と述

べ、市や同ホテルの経営会社との交流に触れながら開設の経緯を話した。

実践講座は二班に分かれて八日まで開き、参加者は計約二百四十人。高齢者が大半で、県外から訪れた人が多いという。

参加者は、医師や理学療法士らでつくる温泉療養システム研究会の植田理彦会長から講義を受けた後、約四十人が同ホテルの温水プールでインス

トラクターから水中運動を学んだ。愛知県小牧市から訪れた沢浦道行さん(65)は「もつと運動をしていこうと考えており、大町市はいい環境だと思ふ」と話していた。

常設キャンパスは、同ホテル一階に設けたカウンスターが窓口になり、誰でも健康チェックを受けたり、健康状態に合わせた運動施設や食事などを紹介してもらったりすることができる。